

RETAILER ACADEMY NEWS

Mar 2020 | Bentley Motors Japan

明らかにW12より音量が大きく低音。
決してW12の廉価グレードではない

— ベントレー福岡・徳永様

スポーティとラグジュアリーを融合した車。
価格差ではなくお客様のシチュエーションで選べる

— ベントレー東京・大山様

街乗りからロングドライブまで、乗り味が楽しみやすい

— ベントレー大阪・神戸・光田様

軽快さと乗りやすさ。

日常生活ではV8の方が使い勝手が良い

— ベントレー大阪・桑尾様

コンチネンタルGT V8の試乗研修を実施



ベントレー モーターズ ジャパンは、2月25日にセールスマネージャーとセールススタッフを対象としたコンチネンタルGT V8の試乗研修を実施しました。コンチネンタルGT V8の導入にあたり、W12モデルとV8モデルの違いをしっかりと把握したいという意見を多くいただいた



ていました。この研修は、実際にW12モデルとV8モデルを運転することで、何がどう違うのかを知っていただくことを目的に実施しました。

当日は、Audi AGの公認インストラクターの森岡史雄さんと、VW AGの公認インストラクターの金子陽一さんにお手伝いいただき、会場のGKNドライブレインジャパンの高速周回路やワインディングロードを組み合わせ、普段の走行レンジでの違いを感じていただくことに注力しました。

参加者の皆さんは、V8がスポーティでW12がラグジュアリーと感じていたようですが、インストラクターの2人は「W12が以前のモデルと比較してスポーティな性能が大幅に向上し、V8モデルはスポーティな演出はされているものの、実際には足回りもしなやかでラグジュアリー感もあり乗りやすいクルマだ」と評価していました。W12とV8のパフォーマンスの距離感は縮まっているということを感じているとのことでした。

近年ではエグゾーストサウンドを気になさるお客様も多く、V8モデ

ルは野性味あふれる野太いサウンドを奏でるので、お客様に気に入っていただけるのではないかとという参加者の声もありました。

参加者の声の一部は、上記および下記のとおりです。他の参加者がどんなことを感じたのか、参考になさってください。



参加者が感じたコンチネンタルGT V8の良さ (一部抜粋)

- 加速感がW12と比較しても劣っていない。スポーツモード時のサウンド感が良い (ベントレー福岡・松井様)
- 街乗りのお客様には軽快である。とてもパワフルでW12と比べても引け目はない (ベントレー広島・檜山様)
- 街乗り中心のお客様はV8。軽い。エンジンサウンドを楽しんでいただける (ベントレー広島・平野様)
- W12よりスポーティなエンジンサウンドで運転の楽しさを感じることができた (ベントレー大阪・中野様)

- 街乗りがメインの方、V8独特のサウンドや走りの好きな方におすすめ (ベントレー神戸・服部様)
- 意のままに操れるスポーティな味付けのため新しい。軽快感のある走りを感じた (ベントレー神戸・伊藤様)
- 軽快感のあるステアリング。外から聞くサウンドはV8が勇ましい (ベントレー名古屋・黒澤様)
- パワフルで軽やか。スポーツモードのエグゾーストの変化で楽しめる (ベントレー横浜・村松様)
- 低速域でスポーツモードに入るとマフラーサウンドの変わり方がわかりやすい (ベントレー横浜・小泉様)
- 先代より荒々しさを感じるエンジン。レスポンスの良さ、W12と変わらない加速感 (ベントレー横浜・宮尾様)

- W12に引けを取らないパフォーマンス。ステアリングの軽さ、燃費の良さ (ベントレー東京・斎藤様)
- 運転の軽快さ。ダイナミックなサウンドと裏腹に、ソフトでラグジュアリーな乗り心地 (ベントレー東京・宮田様)
- 先代に比べ、V8のパフォーマンスが格段に上がっている。価格設定にうなずける (ベントレー東京・鈴木様)



ジュネーブ・モーターショーで発表予定だった 今後デビューするニューモデル

2020年3月5日から15日の日程で開催される予定だった第90回ジュネーブ・モーターショーは、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を受け、2月28日に突如キャンセルとなりました。これは同日にジュネーブ州議会が3月15日まで1,000人を超えるイベントの開催を禁止したため。すでに会場設営はほぼ完了している状態で、現地入りしていたメーカー関係者も少なくない状況でした。しかし、スイスで最初の感染者が現れたことで状況が一変。イタリアと国境を接しているスイスでは、毎回モーターショー開催期間中にイタリアから多くの人が訪れるため、今回の開催中止という決定がなされました。

これを受け、自動車メーカー各社はそれぞれの方法でニューモデルを発表を行っています。ダイムラーやBMW、フォルクスワーゲンのようなメーカーは、モーターショーでの記者会見の代わりにオンラインストリーミングによりニューモデルを発表。それ以外のメーカーも、今回発表する予定だったニューモデルをウェブ上で発表したり、あるいはそれぞれの本拠地などで報道陣向けのニューモデル発表会を開催したりしています。

なかには公開のタイミングを逸してしまい、お蔵入りになってしまったモデルもあるかもしれません。それらは今後なんらかのタイミングで発表されると思いますが、世界的に新型コロナウイルスの感染が広がっている現段階では、まったくの未定という状況です。

そんな緊急事態を受け、今回はジュネーブ・モーターショーで発表される予定だったニューモデルのうち、現時点でメーカー発表があった主要モデルについてご紹介します。

Bugatti Chiron Pur Sport

ブガッティ シロン ピュアスポーツ



毎年ジュネーブで新作を発表するブガッティは、シロン ピュアスポーツを発表しました。その名の通り、ブガッティ シロンのさらなる運動性能向上を図ったこのモデルは、車重を50kg軽量化するとともに、1.9m幅の固定式リアスポイラーを装着してダウンフォースを高めています。エンジンは、最高出力1500 psはそのままに、最高回転数を200rpm高い6900rpmに設定。さらにギア比を近づけることで、主に中間加速における性能を向上。ギア比の変更とダウンフォースを高めた空力セッティングにより、最高速度はシロンより70km/h低い350km/hとなっています。



ASTON MARTIN V12 SPEEDSTER

アストンマーティン V12 スピードスター



アストンマーティンは、88台のみ製作される限定モデルのV12 スピードスターを本社のあるイギリスのゲイドンで初公開しました。デザインは同社の名モデルとジェット戦闘機のF/A-18 ホーネットからヒントを受けたもので、ルーフもスクリーンもないオープン2シーターボディはほぼカーボンファイバーで製作。F/A-18をコンセプトにした仕様も注文可能です。5.2L V12ツインターボエンジンは最高出力700 ps、最大トルク735 Nmを発揮。車両本体価格は765,000ポンド（約9,500万円）で、納車は2021年第1四半期から開始される予定です。



McLaren 765LT

マクラーレン 765LT



マクラーレン・オートモーティブは、同社の720Sをベースにしたハイパフォーマンモデル、765LTを発表しました。「LT」＝ロングテールの名を冠する一連のモデルはさらなる高性能を追求したもので、765LTでは4.0L V8ツインターボエンジンの最高出力を45 psアップの765 psに。最大トルクは30 Nmアップの800 Nmに増強しています。もともと軽量さが特徴だった車体は80kgもの軽量化が行われ、乾燥重量は実に1229kg。これにより、0-100km/h加速は2.8秒、最高速度は330km/hと発表されています。限定765台で9月から納車開始予定です。



Porsche 911 Turbo S

ポルシェ 911 ターボS



ポルシェは911シリーズのトップエンドモデルとなる911 ターボSを追加しました。現行911カレラの3.8L 水平対向6気筒エンジンをベースに、再設計されたエアインテークシステム、新しい大型VTG（可変タービンジオメトリー）ターボチャージャーの採用など、広範囲にわたる改良を実施。これにより、最高出力は従来比70 psアップとなる650 psに、最大トルクは50 Nmアップの800 Nmを実現。8速PDKとAWDの組み合わせにより、0-100km/h加速2.7秒、最高速度330km/hと発表されています。オープン版の911ターボスカブリオレも発表されました。



BMW Concept i4

BMW コンセプト i4



BMWは、同社の電気自動車ブランド「BMW i」のコンセプトモデルとして、BMW Concept i4を発表しました。2021年にBMW i4として発売される予定の同車は、BMW iブランド初の4ドアモデル。2020年に発売予定の電動SUV、BMW iX3とともに、この4ドアのグランクーペを加えることで、同社の電動化ラインアップが拡充します。最高出力530 psの強力な電気モーターと80kWhの大容量バッテリーの搭載により、0-100km/h加速は約4.0秒、最高速度は200km/h以上を実現。150kWの充電システムに対応し、航続距離は最長600kmと発表されています。



Audi e-tron/e-tron Sportback S-model

アウディ e-tron/e-tron スポーツバック Sモデル



アウディは同社初の量産電気自動車（BEV）となるe-tronとe-tron スポーツバックに、ハイパフォーマンモデルである「Sモデル」を用意しています。e-tronでは前後にモーターを搭載したAWDとしているのに対し、Sモデルではリアにモーターを1基追加して合計3基のモーターを搭載したのが最大の特徴。最高出力435 ps、最大トルク808 Nmの強力な出力により、0-100km/h加速は4.5秒、最高速は210km/hでリミッターが作動します。EVにおいても走りの楽しさは決して損なわれないという、同社の揺るぎない姿勢を体現したモデルです。



COMPETITOR INFORMATION

Rolls Royce Dawn Silver Bullet Collection

ロールス・ロイス ドーン シルバーブレット コレクション



ロールス・ロイスは、同社の4シーターコンバーチブルモデルの「ドーン」をベースにした2シーターモデル「ドーン シルバーブレット コレクション」を発表しました。これは1920年代の退廃的で華やかな時代の雰囲気を実現代に甦らせたもので、この時代につくられた豪華なロードスターをイメージしたもので、リアシート上に装着されるツインドーム型のフェアリングは豪華なレザーがふんだんに用いられ、小物入れも設けられます。インテリアではセンタートンネル部分にキルティングを施すなど、各部を特別仕立てとしたこのモデルは50台が限定生産されます。



Maserati MC20

マセラティ MC20



マセラティは、以前から開発を行っている新たなスポーツモデル、MC20のプロトタイプの写真を発表しました。これは同社としては2004年に発表した「MC12」以来となる、ミッドシップ2シーターの本格的なスポーツモデル。車名の「MC」とはマセラティ・コルセ、「20」とは2020年を意味していて、同社はこのモデルによりモータースポーツへの復帰を計画しています。最新設備により改修されたモデナの工場にて生産されることが決まっているこのモデルは、2020年5月末にモデナで公表すると発表されています。



Alfa Romeo Giulia GTA

アルファロメオ ジュリア GTA



アルファロメオは、今年創立110周年を迎えることを記念して製作される限定モデル、ジュリア GTAを発表しました。1960年代のレースシーンで大活躍したジュリア・スプリントGTAのDNAを継承するこのモデルは、ジュリア・クアドリフォリオがベース。車両重量は約100kg軽量化され、2.9L V6エンジンは30 psアップの540 psを発揮。さらにザウパーエンジニアリングが手がけた迫力のエアロキットを纏っています。また後席を取り払って2シーター化、およびロールバーを装備したスパルタンなモデル、ジュリア GTAmも設定。両方合わせて500台が生産されます。



COLLABORATION

ブライトリング for ベントレーが新作を発表 17年のパートナーシップを記念



新性、洗練性に対する姿勢を反映しています」などとコメント。ブライトリングのジョージ・カーンCEOは、「今回発表したベントレーとブライトリングのDNAを明確に受け継いだ限定モデルは、私たちが共有するストーリーの論理的な次へのステップであり、ヘリテージ、クラフツマンシップ、卓越したパフォーマンスと同義とも言えるベントレー マリナーの証でもあります」などとコメントしています。

ブライトリング プレミエ ベントレー マリナー リミテッドエディションは、42mmのステンレス製ケースに、車内で使用するレザーカラー「インペリアルブルー」を模したブルーのワニ革ストラップが組み合わされています。3時の位置には30分のカウンター、9時の位置には60秒のカウンターを配するブライトリング キャリバー 01の特徴が見られ、パワーリザーブも70時間という長さを誇ります。

ケース左側には、「BENTLEY」の文字を刻み、クラシック ベントレーに見られるエンジンスピン ダッシュボードと同様のデザインのプレートを装着。ムーブメントが見える透明なケースバックには、「MULLINER EDITION - BREITLING - ONE OF 1000」というシリアルナンバーも刻まれます。



ベントレー モーターズとブライトリングはこのほど、17年間のパートナーシップを記念したブライトリング for ベントレーの新作「ブライトリング プレミエ ベントレー マリナー リミテッドエディション」を発表しました。この腕時計は1000本限定で製造されるもので、ベントレーのデザインDNAを受け継ぎ、ラグジュアリー グランドツアラーの頂点として先日発表されたコンチネンタルGT マリナー コンバーチブルをイメージしてデザインされています。

ベントレーとブライトリングのパートナーシップの始まりは2002年までさかのぼります。2003年には初代コンチネンタルGTの車載クロックをブライトリングが手掛け、それ以来はブライトリング for ベントレーとして、数々のエクスクルージブな腕時計を世に送り出してきました。

ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「ベントレーとブライトリングの長年にわたる関係は、両者が共有する価値観と、世界をリードするパフォーマンス、ラグジュアリー、革

マリナー バカラル発表 コーチビルド復活への第一弾



ベントレーのビスポーク部門であるマリナーはこのほど、英国クルー本社で新モデル「バカラル」を発表しました。バカラルは希少な2ドアのベントレーであり、2人乗りのオープンエア ラグジュアリー の究極の形を表現したものです。このグランドツアラーは、世界最古のコーチビルダーであるマリナーがコーチビルディングへ回帰する第一弾です。

バカラルは世界限定12台のみが製造され、その希少性とエクスクルーシブさは折り紙付き。限られたお客様に、極上のラグジュアリーと圧倒的なパフォーマンスを提供します。バカラルはまた、未来のビスポーク ラグジュアリー モータリングを見据えたモデルで、クルーにあるマリナーの工房で手作業にて仕上げられます。

この例外的にレアなモデルは、メキシコ・ユカタン半島にある息をのむような自然の美しさで知られるラグーナ・バカラルにちなんで名付けられました。2015年にベンティガ(グラン カナリア諸島の奇岩「ロケ・ベンティガ」に由来) から始まった、特筆すべきランドマークに由来した車名を付けるベントレーの戦略を受け継いでいます。

バカラルはマリナーに命を吹き込まれ、少数のお客様に希少なコーチビルドカーを提供するという専門性を復活させました。まったく新し

く、非常に筋肉質でルーフのないバルケッタデザインは、あらゆるオプションと素材を取り入れることで、マリナーのデザインチームがお客様と直接やりとりしながら、真の意味でユニークな1台に仕上げていきます。

サステナブルを実践し、なおかつ倫理的に調達した素材を使用して作られたコンセプトカー EXP 100 GTのデザインDNAを受け継いでおり、もみ殻灰を原料とする塗料や天然のブリティッシュウール、イングランド東部のフェンランズで取れる5000年前のリバーウッドを使用しています。

6.0リッター W12 TSIエンジンの強化バージョンを搭載し、最高出力は659PS、最大トルクは900Nmです。先進的なアクティブAWDシステムを備え、巡航時などはほぼFRとなるなど、状況に応じて各車輪にトルクを配分することで、ダイナミックなパフォーマンスと燃費向上を両立させています。

世界最古のコーチビルダーであるマリナーは、ベントレーとともに新しいオペレーションを開始しており、クラシック、コレクション、コーチビルドの3部門から成るポートフォリオを提供しています。バカラルは、この3つのうちのコーチビルド部門が担当します。

バカラルの特徴

- ルーフのないオープントップのバルケッタデザイン
- 6.0リッター W12 TSIエンジンの強化バージョンを搭載
- 最高出力659PS、最大トルク900Nm
- インテリアには5000年前の素材「リバーウッド」を使用
- サステナブルを实践するもみ殻灰を原料とする塗料を使用
- カーボンニュートラル認証を受けた工場で製造
- 世界限定12台



マリナーの新作が続々と登場 コンバーチブルで2種類の特別仕様車

今年2～3月にかけて、マリナーが新作を続々と発表しました。いずれもコンチネンタルGTコンバーチブルをベースとしたモデルで、オープントップのラグジュアリー グランドツアラーを再定義する存在です。



コンチネンタルGTマリナー コンバーチブル

このモデルの最大の特徴は、ダブルダイヤモンドです。コンチネンタルGTで採用されたダイヤモンド・イン・ダイヤモンド・キルティングからインスピレーションを得たモチーフで、シートだけでなくフロントグリル、サイドベント、ドアケーシング、リアクォーターパネル、そして初採用となるトノカバーの装飾に使われています。インテリアでは、カスタムメイドの3色のコンビネーションが8種類から選べるほか、2色のコントラストステッチや、コントラストダイヤモンドのセンターコンソールパネルなど、マリナーが手作業で仕上げる特別仕様が配されています。なお、P3で紹介したブライトリングの限定ウォッチは、このモデルからインスピレーションを得てデザインされています。



コンチネンタルGTコンバーチブル イクエストリアン エディション

クラシック、コレクション、コーチビルドの3部門から成るマリナーの新しいオペレーションの中で、コレクションの第一弾として発表されたのがコンチネンタルGTイクエストリアン エディションです。イクエストリアンとは「馬術」の意味。このモデルは、競馬の世界で最も権威のあるチェルトナム フェスティバルが開催される世界最高峰の競馬場の本拠地にあるベントレー プリストルからの依頼を受け、マリナーがクルーで製作しました。インテリアには、4つのシートのヘッドレストに馬とライダーのシルエットの刺繍が施され、同じシルエットはウォルナットのシングルヴェニアのフェイスパネルにも描かれています。ドアパネルのダイヤモンドキルティングは、本物のツイード生地を使って仕上げられています。



MOTOR SPORT

GTワールド チャレンジ アジアに コンチネンタルGT3の参戦が決定



英国のレースチーム「JMWモータースポーツ」はこのほど、2020年のGTワールド チャレンジ アジアにコンチネンタルGT3で参戦することを決定しました。ドライバーは、かつてベントレーのワークスチームで活躍したアンディ・メイリックと、インドネシア人ドライバーのアンドリュー・ハリヤントの2人です。

ベントレーのモータースポーツ責任者のポール・ウィリアムズは、「勝つチャンスのあるGTワールド チャレンジ アジアへの参戦は、当面はベントレーにとって優先度の高い事項となります。JMWモータースポーツもその準備はできていると信じています。GTワールド チャレンジのあらゆるレースにベントレーが参戦することで、真にグローバルなモータースポーツプログラムになっていくことでしょう」などとコメントしています。

GTワールド チャレンジ アジアは、3月28～29日にマレーシア・セパンサーキットで行われる開幕戦を含め、全6戦が行われる予定。第3戦は富士スピードウェイ(5月23～24日)、第4戦が鈴鹿サーキット(6月20～21日)での開催が予定されています。ワークスチームのコンチネンタルGT3とは異なるカラーリングのマシンを見られるチャンスです。ぜひ熱いご声援をお送りください！

COLLECTION

ベントレー ゴルフの新作 テック コレクション登場



ベントレー ゴルフから、テック コレクションの新作が発表されました。このコレクションは、コンチネンタルGTからインスピレーションを得てデザインされた高性能クラブで、革新的な技術と並外れたクラフトマンシップの融合により、ゴルファーがより一層ゴルフを楽しめる体験を提供します。

テック コレクションのクラブは、プロであろうと初心者であろうと、パフォーマンスを最大限に引き出すため、複数素材を使用した設計となっています。各クラブは最高品質の素材を慎重に選択して組み合わせた構成となっています。

例えば、アイアンはチタン製のフェイスとカーボンファイバー製のバックが採用されており、最大限のパワーを引き出してくれる設計です。また、パターは高密度スチールと非常に柔らかいアルミニウム、カーボンファイバーのティテールを組み合わせました。経験の浅いゴルファーを支援するように、中心から外れたパッティングの際にも力強いサポートを提供します。

伝統的なデザインと現代的なデザインを高度にバランスさせる設計は簡単ではありませんが、テック コレクションではこれらを両立。ベントレーのデザイナーのクリス・クックは、「テック コレクションのデザインは、ベントレーの過去・現在・未来からインスピレーションを得ています。これらの要素を1つにまとめあげたものが、比類のないデザインと卓越したクラフトマンシップというベントレーの哲学を反映しています」などと語っています。

6.0リッター W12 TSIエンジンの特徴とは

3月3日に発表された2シーター・オープンカー「BACALAR（バカラル）」。
世界随一の歴史を誇る名門コーチビルダー Bentley Mulliner が世に送る、わずか12台の至宝のモデル。
こちらに搭載されるのはベントレーが誇る12気筒エンジン、W12 TSI。今回は、改めて、このユニットの特徴を説明します。



12気筒エンジンの魅力はどこにある？

世の中には、数多くのエンジンがありますが、基本的に気筒数が多くなるほど、エンジン・フィーリングは良好になり、そして大出力が手に入りやすくなります。そうした中で古くから、最もprestige性の高いエンジンと世界中で認められてきたのが12気筒エンジンです。滑らかに高回転まで回り、さらにパワフル。エンジンの奏でる排気音も独特なもので、クルマ好きを自称する人たちに古くから好まれてきました。そのためプレミアム・ブランドの多くでは、そのフラッグシップ級のモデルに12気筒エンジンを搭載するのが恒例となっているのです。



素晴らしいフィーリングと大パワーを実現する12気筒エンジンは、古くからプレミアム・ブランドのフラッグシップ級のモデルに搭載されてきました。

W12 TSIエンジンのテクノロジー

コンチネンタルGTをはじめベンティガなどにも搭載される6.0リッターW12 TSIエンジン。そのTSIは「Turbocharged Stratified

Injection」の略で、直噴のターボ・エンジンであることを意味します。ただし、W12 TSIエンジンは燃料を直接にエンジン・シリンダー内に噴霧する直噴システムだけでなく、吸気ポートに低圧で噴霧するシステムを併用することで、パワーと排気ガスのクリーン化、燃費向上をバランスさせています。また、信号などの停車時に、エンジンを自動で停止・再始動させるスタート・ストップ・テクノロジー機能や、エンジン負荷の小さいときに6気筒を休止させる可変シリンダーシステムを採用。時代に合わせた優れた環境性能を実現しています。

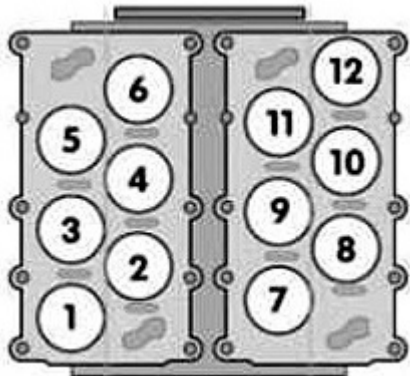


「BACALAR（バカラル）」に搭載される6.0リッターW12 TSIエンジンは、従来よりもパワーアップされており、最高出力は659PS・最大トルク900Nmに達します。

W12 TSIエンジンのユニークポイント

世に数多ある12気筒エンジンの中でも、W12 TSIエンジンはとびきりユニークな存在です。その個性はW型と呼ばれるエンジン・シリンダーの配置方法にあります。一般的な12気筒エンジンは1つのクランクシャフトに対してシリンダーを6気筒ずつV型に配置します。しかし、W12 TSIエンジンは、6気筒をまっすぐではなく3気筒ずつV型に配置。それを2対使うことで、合計12気筒がWのように配置されているのです。こうした独特なレイアウトにより、W12エンジンは通

常のV12エンジンよりも前後の寸法が短くなります。つまり車載性が良くなるのです。これによりクルマのデザインの自由度が高まり、よりスタイリッシュなクルマを作ることが可能になります。また、クランクシャフトは短くなって、より強度が増し、回転はより滑らかになります。



図はエンジンを上から見たところ。12本のシリンダーがまっすぐではなく、交互にズレて並ぶのがW12型エンジンの特徴。

12気筒エンジンのメリットとデメリット

メリット	滑らかな回転フィール
	大出力と大トルク
	コンパクトなエンジン長
デメリット	部品点数の多さによる重量・コスト増
	吸排気系統の取り回しの難しさ
	燃費効率での不利